

研究所彙報

一 二〇一六年度研究所・所員リスト

准教授 市野澤 潤 平 (文化人類学)

教授 今 林 直 樹 (社会学・政治学)

教授 菊 池 勇 夫 (日本近世史)

准教授 木 村 春 美 (第二言語習得・英語教育)

教授 九 里 順 子 (日本近代文学)

准教授 間 瀬 幸 江 (フランス文学・演劇)

教授 松 浦 光 和 (心理学)

教授 森 雅 彦 (西洋美術史)

教授 J. F. モリス (日本文化論)

教授 新 免 貢 (宗教学)

准教授 杉 井 信 (社会人類学)

教授 高 田 紀 代 志 (科学史・科学論)

教授 田 中 一 裕 (生態学)

- 教授 天童 睦子 (女性学)
- 教授 土屋 純 (地理学)
- 教授 豊澤 弘伸 (国語教育)
- 教授 八木 祐子 (文化人類学)
- 教授 吉村 典子 (西洋建築デザイン史)
- 客員 阿部 隆 (宮城学院女子大学名誉教授・人文地理学)
- 客員 今高 義也 (宮城学院中学校・高等学校教諭・日本思想史)
- 客員 井上 研一郎 (宮城学院女子大学名誉教授・近世美術史)
- 客員 岩川 亮 (元宮城学院女子大学准教授・フランス語学・文学)
- 客員 遠藤 みどり (日本学術振興会特別研究員・日本古代史)
- 客員 犬飼 公之 (宮城学院女子大学名誉教授・古代文学)
- 客員 大石 泰夫 (盛岡大学教授・日本古代文学)
- 客員 大迫 章史 (仙台白百合女子大学准教授・近代日本高等教育史・近代日本教育制度史・教育行政学)
- 客員 木曾 恵子 (東北学院大学および宮城学院女子大学非常勤講師・文化人類学・タイ地域研究・ジエングダー研究)
- 客員 後藤 純子 (元大阪市立大学文学部助教授・インド学・宗教学)

客員 後藤 久太郎（宮城学院女子大学名誉教授・建築史）  
客員 佐々木 民夫（岩手県立大学教授・日本文学）  
客員 富永 智津子（元宮城学院女子大学教授・東アフリカ・インド洋地域近現代史）  
客員 豊山 亜希（近畿大学国際学部講師・南アジア美術史）  
客員 早坂 優子（多賀城市教育委員会事務局文化財課調査普及係・民俗学）  
客員 丸山 仁（宮城学院中学校・高等学校教諭・日本中世史）  
客員 丸山 仁（宮城学院中学校・高等学校教諭・日本中世史）

## 二 共同研究について

本年度の共同研究のテーマは次の通りである。

「南島における民族と宗教」

「多民族社会における宗教と文化」

「キリスト教文化の受容と変容」

「家族文化の総合的研究」

共同研究の成果として、次の冊子が刊行された。

『沖繩研究ノート』26

『多民族社会における宗教と文化』No. 20

三 二〇一六年度研究所活動報告

シンポジウム

二〇一六年二月一九日(土) 午後一時より午後四時(≪本学第二講義館三階K三〇二≫)

「人間の復興と女性のエンパワーメント―女子大学から立ち上がる復興の新たなかたち―」

パネリスト 浅野 富美枝(本学特任教授)

パネリスト 金 谷 美 和(国立民族学博物館外来研究員)

パネリスト 畑 山 みさ子(本学名誉教授)

実践報告 市野澤 潤 平(本学准教授)

総合同会 天 童 陸 子(本学教授)

総合同会 澤 邊 裕 子(本学准教授)

共催 共同研究プロジェクト「女性・子どもと地域」研究ネットワーク(WAC)

公開講演会

二〇一六年二月一七日(土) 午後一時より午後四時三〇分(≪本学本館三階第二会議室≫)

「天空のコスモロジー―琉球・八重山諸島から見る宇宙―」

演題「琉球諸島の民間文芸に見る星・月・風」

講師 山 里 純 一(琉球大学法文学部教授)

演題「八重山の暮らしと伝承 星・月・風」

〈共同研究「多民族社会における宗教と文化」主催〉

公開研究会

二〇一六年六月二一日(火) 午後四時二〇分より午後五時五〇分(本学人文館三階A三〇三演習室)

「被災地の心の復興と震災前の地域共同体」

報告者 李 仁子(東北大学教育学部准教授)

共催 共同研究プロジェクト「女性・子どもと地域」研究ネットワーク(WAC)

二〇一六年七月二三日(土) 午後一時より午後五時(≪本学人文館五階A五四九大会議室≫)

「変化するネットワークの人生儀礼をめぐる―肉ある儀礼から『出家』式へ―」

報告者 工 藤 さくら(東北大学大学院文学研究科宗教学研究室博士課程)

「女性が生きる意味としての「仕事」―北インド農村女性のライフヒストリーから―」

報告者 菅 野 美佐子(東京福祉大学特任講師)

コメンテーター 南 出 和 余(桃山学院大学国際教育学部准教授)

共催 東北人類学談話会

二〇一七年二月二〇日(金) 午後三時より午後六時(≪本学人文館五階A五四九大会議室≫)

「植民地インドにおける日本製タイトルの受容とその表象性」

講師 宮 城 幸 子(石垣市立宮良小学校元校長)

コメンテーター 犬 飼 公 之(本学名誉教授)

報告者 豊山 亜希（近畿大学国際学部講師、本研究所客員研究員）

二〇一七年二月一三日（月）午後二時より午後四時（Ⅱ本学講義館四階C四〇九教室）

「タイにおける観光ダイビング産業の現状」

報告者 小 河 久 志（常葉大学准教授）

報告者 市野澤 潤 平（本学准教授）

#### 四 所員消息（二〇一六年四月―二〇一七年三月）

市野澤 潤 平 准教授

論文「楽しみのダークネス…災害記念施設の事例から考察する「ダークツーリズム」の魅力と観光経験」（『立命

館大学人文科学研究所紀要』、二〇一六年三月）

学会報告「タイにおけるマリン・ワイルドライフ・ツーリズムの現地化…勃興する観光ダイビングのタイ人市場」

総合観光学会第三〇回全国学術研究大会・帝京大学（二〇一六年六月二六日）

シンポジウム「東日本大震災における宮城学院女子大学の社会貢献…学生による子ども支援ボランティアを中心に」宮城学院女子大学キリスト教文化研究所主催シンポジウム『人間の復興と女性のエンパワーメント…女子大学から立ち上がる復興の新たなかたち』（二〇一六年一月一九日）

今 林 直 樹 教授

単著『沖繩の歴史・政治・社会』（大学教育出版、二〇一六年四月）

共著『文化における〈風景〉』（翰林書房、二〇一六年七月）

論文「坂本繁二郎のフランス体験と『雲』のある風景（『文化における〈風景〉』所収）  
研究ノート

「宮古・八重山諸島に関する覚書」（『沖縄研究ノート』二十六、二〇一七年三月）

菊池 勇 夫 教授

著書『義経伝説の近世的展開―その批判的検討―』（サッポロ堂書店、二〇一六年一〇月）

著書『近世北日本の生活世界―北に向かう人々―』（清文堂出版、二〇一六年一月）

著書『非常非命の歴史学―東北大飢饉再考―』（校倉書房、二〇一七年一月）

論文「東北地方における名子制度・刈分小作と凶作・飢饉―一九三〇〜七〇年代の研究を読み直す―」（『気候適

応史プロジェクト成果報告書』Ⅰ、総合地球環境学研究所、二〇一六年三月）

論文「〔山谷本寺〕における村落社会の変容―享保一二年人数改帳の分析を中心に―」（『骨寺村莊園遺跡村落調

査研究報告書』（二関市博物館、二〇一六年三月）

論文「湯浴みする人々―真澄が歩いた温泉の光景」（『菅江真澄研究』第八六号、菅江真澄研究会、二〇一六年五  
月）

エッセイ「あのころ―1988」（『Newsletter』No. 9、総合地球環境学研究所気候適応史プロジェクト、二〇  
一六年六月）

展示批評「『夷酋列像 蝦夷地イメージをめぐる人・物・世界』を見て」（『歴博』第一九七号、国立歴史民俗博

物館、二〇一六年七月)

講演 「気候変動と凶作―稗の役割、八戸藩久慈通を中心に」(九戸歴史民俗の会創立一〇周年記念公開歴史講演会、主催九戸歴史民俗の会、会場久慈グランドホテル、二〇一六年九月)

講義 「近世後期の本寺―飢饉という非常体験」(講座「骨寺大学」、主催一関市博物館、会場同研修室)

講演 「五稜郭と箱館戦争」(主催五稜郭の文化価値を考える会、会場函館市中央図書館、二〇一六年一〇月一日)

講義 「秋田大館の戊辰戦争」(主催安藤昌益と千住宿の関係を調べる会、会場東京芸術センター会議室、二〇一六年一〇月二八日)

基調講演 「凶年・飢饉の記録が伝えるもの―近世人の「用心」」(栃木県立文書館・開館三〇周年記念シンポジウム、主催栃木県立文書館、会場栃木県庁東館四階講堂、二〇一六年一月)

木村 春美 准教授

論文 「L2 intolerance of ambiguity revisited: Toward a comprehensive understanding.” (*Konn Language Studies*, 4: 2 197-216, 2016)

論文 「“Incivility among group mates in English classes at a Japanese women’s university.” (*TESL-EJ*, 19: 4, 1-16, 2016)

論文 Making it happen through reflection: Instructed Second Language Acquisition. (*Bulletin of Miyagi Gakuin Women’s University*, 122, 125-139, 2016)



- 論文 “Developing a dictation test to stream learners: Quick and dirty or smart and efficient?” (*Bulletin of Miyagi Gakuin Women's University*, 123, 53-71, 2016)
- 学会発表 “Back-to-the-Future” Essays Come Alive,” JALTPan SIG Conference 2016, Meio University (Okinawa) (二〇一六年五月二十二日)
- 学会発表 “L2 Intolerance of Ambiguity: Cognitive, Interpersonal, & Intercultural,” Psychology of Language Learning Conference 2, Jyväskylä (Finland) (二〇一六年八月二十三日)
- 学会発表 “Back-to-the-Future Essays Aid Study Abroad Gains,” JALT International Conference 2016, WINC Aichi (Aichi) (二〇一六年十一月二十八日)
- 九里 順子 教授
- 著書 『文化における〈風景〉』(共著、宮城学院女子大学人文社会科学研究所編 翰林書房 二〇一六年七月)
- 著書 句集『風景』(邑書林 二〇一六年九月)
- 論文「北園克衛における詩と俳句——詩集『鯉』の試み——」(『日本文学ノート』五一号 二〇一六年七月)
- 論文「木下夕爾、『田舎の食卓』の〈エイメージ〉」(『研究年報』四九号 二〇一七年三月)
- 書評「藤野武句集『火蛾』」(『鬘』五九号 二〇一六年五月)
- 書評「花開くビニール傘」(『暮尾淳詩集』書評、『鬘』六一号 二〇一六年十一月)
- 書評「高橋睦郎句集『十年』」(『鬘』六二号 二〇一七年二月)
- 俳句「背景」(『里』一六五号 二〇一六年十二月)

俳句「去年今年」(『俳壇』 二〇一七年三月)

随筆「骨まで、逢わずに愛して」(『鬢』 五九号 二〇一六年五月)

随筆「葦原の女」(『鬢』 六〇号 二〇一六年八月)

随筆「ずれることから」(『鬢』 六一号 二〇一六年十一月)

随筆「『婦人公論』と室生犀星」(『日本古書通信』 一〇四八号 二〇一六年十一月)

随筆「地下茎」(『鬢』 六二号 二〇一七年二月)

## 新 免 貢 教授

論文「宗教と暴力、そしてディーセンシィー」(本学『研究論文集一二二号』 二〇一六年六月、一―五八頁)

「史的イエスと原始教団との思想的連関を問い直す」(本学『キリスト教文化研究所研究年報五十号』 二〇一

七年三月一日、一―六五頁)

「かき消された声を取り戻す―キリスト教再構築に向けて―」(『群衆二四四号』 二〇一六年十二月、九―三

十三頁)

随筆「風評被害じゃない、現実なんだよ」(兵庫県南部大地震ボランティアセンター発行『津門川ニュース』じし

んなんかにまけないぞ!こうほう) 四〇五号、二〇一六年五月五日、四―五頁)

「徐々に形成されるナショナルリズム」(同四〇六号、二〇一六年七月十八日、五―七頁)

講演「日本基督教団「みんなの伝道協議会」主催講演「アブラハム少数派―どこで誰とつながるのか―」(日本基

督教団東北教区センター「エマオ」、二〇一六年九月六日)

日本基督教団名古屋堀川伝道所主催公開講演「かき消された声を取り戻す―キリスト教再構築に向けて―」  
(公益財団法人 名古屋 YWCA 多目的ホール。二〇一六年十月二十三日)

連続公開講座「生前のイエスと原始教団との連続性をめぐる諸問題―G・タイセン論文解題―」(関西神学塾)政  
治・宗教思想研究会、二〇一六年四月二十二―二十三日、日本基督教団西宮公会資料室)

『マリアが語り遺したこと』―規範に抗う福音書の読み方―(同、二〇一六年六月十八―十九日)

『ファリサイ派に刻印されたキリスト教』(同、二〇一六年九月二十三―二十四日、日本基督教団西宮公会  
会資料室)

『非暴力』と『愛敵』(同、二〇一六年十一月二十五―二十六日)

実地聞き取り調査

石巻各地(渡波、長浜、長面、大川地区、鮎川浜、雄勝町)、女川町、女川原発などにおける被災・復興状

況調査(二〇一六年四月二十九―三十日)

石巻ニューゼにおける資料調査、及び、被災者・遺族聞き取り調査(二〇一六年七月九―十日)

熊本県益城町における被災状況調査、及び、被災者聞き取り調査(二〇一六年七月十五日)

七ヶ浜における被災・復興状況調査(二〇一六年九月六日)

帰宅困難区域(飯館、浪江町、請戸漁港周辺など)における被災・復興状況調査(二〇一六年九月七日)

原発事故被災者、避難者集会における資料収集、現況調査(二〇一七年一月三十一日)

田 中 一 裕 教 授

論文「The amplitude of the temperature cycle alters the adult eclosion time and the expression pattern of the circadian clock gene *period* in the onion fly」(Journal of Insect Physiology, Elsevier, March 2016)

論文「A phylogeographic survey of a highly dispersive spider reveals Eastern Asia as a major glacial refugium for Palearctic fauna」(Journal of Biogeography, Wiley, August 2016)

論文「Population divergence in cold tolerance of the intertidal gastropod *Littorina brevicula* explained by habitat-specific lowest air temperature.」(Journal of Experimental Marine Biology and Ecology, Elsevier, August 2016)

講演「家の周りを観察しよう」いきいき学園石巻校(宮城県社会福祉協議会)、東松島市コミュニティセンター(二〇一六年十一月三〇日)

学会報告「温度較差がカイコの羽化時刻におよぼす影響(Ⅱ)」日本昆虫学会・日本応用動物昆虫学会合同大会、大阪府立大学中百舌鳥キャンパス(二〇一六年三月二八日)

学会報告「キクツキコモリグモの歩行活動リズム」日本昆虫学会東北支部会、田沢湖温泉ハイランドホテル山荘(二〇一六年七月二三日)

学会報告「キクツキコモリグモの歩行活動リズム」日本蜘蛛学会、東京大学柏キャンパス新領域環境棟FSホール(二〇一六年八月二〇日)

天 童 睦 子 教授

編著『育児言説の社会学―家族・ジェンダー・再生産』（世界思想社、二〇一六年四月）

論文「『家庭と教育』の研究動向と課題―家庭教育・戦略・ペアレントトランシー」（共著）『家族社会学研究』第  
二八巻第二号、二二四―二三三、日本家族社会学会、二〇一六年十月）

エッセイ「人間形成とジェンダー―歩みを照らす光を求めて」（長谷川宏司編『教え人』『学び人』のコミュニ  
ケーション』大学教育出版、二〇一六年三月）

学会報告 (Keynote speech) Knowledge Transmission and Human Development: beyond crisis in education from  
a global perspective, ISA Midterm conference, TASE the 22nd Taiwan Forum on Sociology of Education  
(於 National Chung Cheng University) 2016・5・20

学会報告「フェミニズムで読み解く知識伝達理論」 国際ジェンダー学会2016年大会（於一橋大学）二〇一  
六年九月十一日

学会報告「育児言説をバーンスティンで読み解く―育児雑誌記事にみる教育化とジェンダー化」（共同報告）日  
本教育社会学会第六八回大会（於名古屋大学）二〇一六年九月十七日

八 木 祐 子 教授

論文「アザムガルの民俗歌謡―婚姻儀礼と女性の歌」（『多民族社会における宗教と文化』Vol. 19、宮城学院女  
子大学キリスト教文化研究所、三七〇―五二頁、二〇一六年三月）

研究発表「アングンのない家―北インド農村における家族と住まいの変化―」分科会シンポジウム『私たちが生

きた時代―高齢女性のナラティブに見る家族と生活世界」、日本南アジア学会第29回全国大会、神戸市外大、二〇一六年九月二五日)

エッセイ「インドとカレー」「カレーと宮城学院」「手で味わうインド料理」「北インド農村のご飯」「ベジタリアン」「変わるインドの食文化」「食の泉」宮城学院女子大学編、河北新報出版センター、二〇〇二六頁、二〇一六年十一月)

海外調査 北インド、ウツタル・プラデーシュ州アザムガル地区 二〇一六年八月二七日～二〇一六年九月一四日「北インドにおけるコミュニティの変化の諸相―ジェンダーと儀礼の関わりから―」に関する調査

吉村典子 教授

著書『ウィリアム・ド・モーガンとヴィクトリアン・アート』(淡交社、二〇一七年三月)

論文「イギリス十九世紀の芸術と社会―社会主義にむかう工芸たち―」、『変革のアソシエ』(社会評論社、二〇一七年一月)

「メアリ・セトン・ワッツとサリー州の「ギルド」―慈善から社会的企業へ―」(宮城学院女子大学学芸学部

『英文学会誌』四五号、二〇一七年三月)

「十九世紀イギリスのステンド・グラス ―モリス商会の仕事を中心に―」(宮城学院資料室年報『信・望・愛』第二二号、二〇一七年三月)

学会口頭発表・招聘講演会「ウィリアム・モリスとイギリスの室内装飾」、ウィリアム・モリス没後百二十年&フォーライフ四十周年記念展・講演会、盛岡赤レンガ館(二〇一六年十一月)

「十九世紀のデザイン改革運動とステンドグラス」、宮城学院百三十周年記念企画・国際公開シンポジウム、  
宮城学院礼拝堂（二〇一六年十二月）

「モリス商会の仕事」意匠学会デザイン史分科会、大阪大学（二〇一六年十二月）

その他 河北新報連載「食の泉」に関する講演会と出版協力（東北大学医学組織培養室同窓会・二〇一六年八月、  
せんだいメディアアテーク・二〇一六年十一月、宮城学院女子大学編『食の泉』河北選書・二〇一六年十一月）